

## みどりの風

令和5年9月29日発行 校報 612号 (みどりの風 155号) 練馬区立関町北小学校

## 「読書の秋」に思う子供たちの未来

研究推進委員 蔵田 健二

現在の世界の様子を想像できた人はどれくらいいるでしょうか。私は子供の頃に鉄腕アトムやドラえもんのようなロボットはもちろん、宇宙旅行や空飛ぶ自動車も夢ではないと考えていました。テレビやマンガで見ていた未来と現実とはかなり違うようですが、大きな発展が遂げられていることは間違いありません。今の小学生の子供たちが大人になる頃には、果たしてどのような世界になることでしょうか。今後 AI が私たちの生活の中に今より多く関わってくることは間違いありません。しかし、いくら様々な文や話をAI など情報技術が判断して処理する時代が来るとはいえ、やはり人と人が話したり、書いたりして直接様々な形で伝え合うことは、生きていく上で無くならないのではないでしょうか。そこでは、話や文から正確に聞き取る、読み取る力、さらに有り余る情報を整理して理解する力が必要となります。そんな将来を生き抜くためにも、未来を担う子供たちに、知識や技能を活用して課題を解決するための「思考力・判断力・表現力等」を身に付けさせることは不可欠となることでしょう。

本校では、昨年度より校内研究で「思考力・判断力・表現力等の育成」を目指して、主に国語科の学習に取り組んでいます。昨年度は「文学的な文章」ということで物語文を中心に取り組んできましたが、今年度は「説明的な文章」を読むことについて研究を進めています。私は、本屋や図書室に足を運ぶときには、みんな何か面白い小説や物語を探し求めるものかと思っていましたが、書籍の2022年の売り上げのランキングでは、半数以上が実用的な本、何かについての説明的な作品だということです。多くの人が、何かから学び、よりよい生活に生かそうとすることを本から学び取っているようです。

私自身、子供のころから、正直本を読むことはあまり得意ではありませんでした。そんな中でも、学生時代の教科書、そして学習に活用してきた様々な書籍から学ぶことは多かったです。そして、今では自分の興味や関心を基に、仕事・生活・趣味などの知りたいことを書籍に求めることが増えてきました。読書自体を楽しむだけでなく、読んで分かったことや考えたことを自分に生かせるという価値に気付いたのかもしれません。そこから自分の生活が変わっていくことなど、本から得られることに喜びを感じることもありました。

子供たちも多くの本や文章と出会うことがあるでしょう。先人たちの様々な知恵や考えから学ぶことができると思います。これからも様々な本や文章に触れようという気持ちを育み、その中から少しでも多くのことを学ぶ機会がもてるようになればと考えております。「読書の秋」に、ご家庭でも様々な本と出会うことができ、そのことによりこれからの未来が豊かなものにつなげることができればうれしいですね。